



畧譜

十

神尾 神谷 神田 神部
 神原 神沼 神戶 神山

二百十一冊

現共十一

庫文閣内			
五六	三六〇八		和
面	二二八		香
九	冊	號	類
架			

392

内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211 (61)
函號	156 17

畧譜

十

神尾 神谷 神田 神部

神原 神沼 神戶 神山

二百十一冊

現共十一

庫	文	閣	内
五六函	二二冊	三六〇八號	和香類
九架			

内閣文庫	番號	和	35000
	冊數		(1106)
	函號		150 17

共十一



友系姓

神尾

徳吉田

高平喜喜

家茂

木山 萬澤

清和天皇... 徳吉田

治和... 徳吉田

伊賀元... 徳吉田

上情... 徳吉田

左近... 徳吉田

武功... 徳吉田

... 徳吉田

長久保 台前河原向古事
御月之長久保河原向古事

長久保

長年
竹島
大和

元次

長年凡近長久保長久保
永德通 元年九月十日
敵之長久保長久保
押長年時長久保

個防の長久保長久保
敵之長久保長久保
長久保

長久保長久保長久保
朝長久保長久保
長久保長久保長久保
長久保長久保長久保
組長久保長久保

権況様公 聞古之河と昔貴史奉修
河鎮火成之由は序神と流公の
活働は序神と切落とあり。○
日八奉奉七日日後を流弁川渡
河渡別田岸に橋公と津と公
渚卒と公命近道に福とあり。○
次 河市を公大弁川水一夜内
御帳と公田勝然石意河好
おとす公田河と公河と渡奉

上策ありと云ふ也

権況様公聞古則河と渡河ありと云
西河河水大渡勝類通渡別公管
内流城を巡りし西勢田中と云
公の公地木紀と公早は渡津
公河水流渡りし河津と
権況様公河軍機成る公と公貴史
公貴史と公河時渡別公河津と
別河津と公河と公河津と公河

建武初國之亂云々事不遂軍
 機とあるの旨に及ぶと存不實
 更ニ文海中大同朝能海使云々
 控邊海に於て名を獲るは海軍に
 云々百官之末に流來ゆ中頭石之次
 之如所云 石之家 之志也蓋以我。
 其又云云平石留所口邊海使使
 守中平向時度云云海國云々
 大頭が所稱するは海國使の云々云々

己に海のあり方と云々
 康子とある年と有るは己に教中
 の詳述し之後七段と云々
 少のよとの云々和之年と有るは
 心母波と云々世の云々七段と云々
 其の云々和之年と有るは己に教中

之略

内化 傳前云 和名内化

淡江 宗休

養母 甲斐守田原親光の妻 阿茶局

初今川家長は神尾源三の嫡女

嫁し忠孝に死後天正五年

東照天皇御宇に御成りし御孫

の御孫に御成りし御孫

の御孫に御成りし御孫

御孫に御成りし御孫

御孫に御成りし御孫

御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫

御孫に御成りし御孫

御孫に御成りし御孫

御孫に御成りし御孫

御孫に御成りし御孫

御孫に御成りし御孫

御孫に御成りし御孫

御孫に御成りし御孫

御孫に御成りし御孫

御孫に御成りし御孫

御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫
御孫に御成りし御孫

名徳侯敏 荒帝（一）のころに村長守重を

流し及の者長六年

東照文の影に神田の官所より守

建之能徳山を敬敏守重を

流し号の暦三年正月頼徳後

神田所志井町と徳代と徳より

天和三年徳川の梅より守重

四年一位守重氣と徳

大徳侯敏守の酒井徳徳守と徳

度々々々々々々々々々々々々々々々

徳徳徳徳徳徳徳徳徳徳徳徳徳

謝一列守重守重守重守重守重

地と徳徳徳徳徳徳徳徳徳徳徳

長子守重守重守重守重守重守重

料守重守重守重守重守重守重

旨死守重守重守重守重守重守重

料白根守重守重守重守重守重

院一位守重守重守重守重守重

之能

孝治元年十二月廿五日父之次教
度の或切

東照文より河原局存子より

御月

右御使成り申上り候事

陣のそとに陣中も定程の陣中

に属しそ段と相いりて年九月

大敵に敵の所も之能も一

人とは相いり候事人の御成と

口之古右大將頼朝の御事と將十番切

と申し口之友少く名品あり御依

えと申す十番切と申す由候事

尤も申上り候事と後此花御成事

孝治元年九月廿一日奥州

上使の口之當年口之口之口之口之

上使の口之七年口之口之口之口之

七年七月口之口之口之口之口之

申年二月

めくれず

之脈

孝治元年十二月廿五日父之次教
度の或切

東照文より名河原局名子より

仰月

名河原局より名河原局名子より

陣のそん松平越中より定保の陣中

より属より段より好日元年九月

大敵に敵の所もえ脈より一

人より名河原より名河原局名子より

口是古右大將頼朝より大將十善

より一より口是友少より名河原局名子より

より一より十善切より名河原局名子より

より一より名河原局名子より

より一より名河原局名子より

より一より名河原局名子より

より一より名河原局名子より

より一より名河原局名子より

申年二月

台座院極御書之西日限或百枚洋銀。以上
 成平六月以下肥前國安房。日度異
 國高松及那蘇利村之車。此法法
 〇以上五箇年六月以上。江戸町奉行。
 日平十二月。每日叙封備前。〇此曆二
 百年二月九日。於德川家。今古古。德
 〇日平。平。正月。十日。而。此邊。亦。大。之。長
 貴。折。公。府。門。下。首。所。指。之。此。國。我。洋。銀。
 日平。二月。為。作。奉。料。今。古。古。洋。銀。〇。是

文元。丑。年。正月。八日。病。死。〇。以上。是。本。上。一
 月。首。領。通。陽。指。子。八。百。石。也。願
 者。被。与。上。領。下。首。領。与。此。法。法。之。奉
 與。山。子。石。以。留。肉。脂。系。下。肉。指。上。法。奉
 八。百。石。為。通。后。村。系。下。判。發。之。法。法。改。
 〇。以上。是。年。月。日。法。年。正月。月。首。年。始。法。法。上
 〇。以上。是。年。月。日。法。年。正月。月。首。年。始。法。法。上
 戶。源。川。雲。光。院。集

元龜

長田行房

父元次家督世漢 御國元次 御時來
代、御國元次當所松本國防古家來是
田種母元吉但

神尾忠稔与 幼尚近 水

元禄

幼元吉

元禄永元子年七月廿八日初元日九時

二川守 御國元次 御時來
為子相勤正則也此好口日本去國
也切本百儀口日本去國年子名如之旨
儀也

大猷院様 御國元次 御時來
收之今不為也此元吉也
以一張与御定下下以三人到元吉

國吉

慶安口知年二月

大猷院御書
九年三月十九日
諸事更定
光元

大猷院御書
九年三月十九日
諸事更定
光元

藏有流様
馬
御書
九年三月十九日
諸事更定
光元

貞代の九月 平山丹波國知
 山城後醍醐の七月十日 平山丹波國知
 帰湯の十二月 平山丹波國知
 同本國内省信州後醍醐丹波國知
 日七月十日 平山丹波國知
 平山丹波國知
 光御殿書之末之馬見之末之末
 平山丹波國知
 平山丹波國知
 平山丹波國知

有種彦之末之末之末之末之末
 害はと承之末之末之末之末之末
 擲捕の末之末之末之末之末
 末之末之末之末之末之末
 守之末之末之末之末之末
 末之末之末之末之末之末
 法皇御下 如院御下 如院御下
 十九日 如院御下 如院御下

今在役。延寶八年奉旨入台

教習院御御地界口以十有雜後御地

令百女之役奉旨。天和二年六月廿

日院。自奉旨之役奉七月及奉旨。元

二年六月廿日奉旨。奉旨奉旨奉旨奉旨

奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨

奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨

奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨

奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨

奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨

病免。元禄九年三月廿七日病免。元禄九年三月廿七日病免。元禄九年三月廿七日病免。

神尾大和守 初令保正奉旨

元禄 初令保正奉旨

天和二年六月廿七日病免。元禄十年奉

七月十日奉旨。元禄十二年六月廿七日病免。

元禄十年六月廿七日病免。元禄十年六月廿七日病免。

元禄十年六月廿七日病免。元禄十年六月廿七日病免。

元文元年十一月十日有出所領地
三戸の諸石丈大和。以て申年
十日は言渡り。寛保二年二月朔日
留り居。以て申年九月十日病死七拾歳
葬地は

神尾之水 幼穉之節

元肥

初元

正徳二年九月十日有初元。寛保二年

二月十日有初元。寛保二年
八月十日有初元。寛保二年

神尾年人 幼穉之節

元肥

寛保二年三月九日

正徳二年二月十日有初元。寛保二年

八月十日有初元。寛保二年

正徳二年三月十日有初元。寛保二年

本院御下御延生所

東海門院御身位公 御

後光院御位公一位公賜神尾一位局事

之長菊御位御位公之長水之長年

台徳院御

大猷院御 御位公之長水之長年

御位公之長水之長年

御位公之長水之長年

台徳院御位公之長水之長年

まゝのやいかにふんのやうな風も

相よとすしれをいありと

台徳院御位公之長水之長年

院の御位公之長水之長年

一守園春は院

院の御位公之長水之長年

八子七百坪御位公之長水之長年

徳山光嚴院御位公之長水之長年

曆之園春御位公之長水之長年

地... 天... 冲... 永...

... 国... 酒... 名...

... 一... 名... 封...

... 又... 名...

... 名...

... 名...

... 名... 名... 名... 名... 名...



夜多姓

高平七喜

家我九内高澤酒

神尾

丸内木瓜

多田滿仲中村田幸文治部中備後佐
下深滿以十九代孫忠田行直也之次嫡子
備前守之侍河原局之喜子之威神尾
改之侍次男

神尾俊高

内膳

功内信

市屋

元信

功不茂

徳后家系

○各處...
時...
若...
右...
凡...
此...
年...

寛永十三年...
親...
寛永九年...
中...
服...
之後...
以...
合...

日本十一月...
分...
以...
德...
病...

元繼

神尾伊勢守

後醍醐天皇御紀。元祿二年三月
十日病歿。信八歲葬地。〇

神尾市郎 幼平 帝

元
定

元祿元年八月一日幼平。〇
二月九日。〇
己未七月一日。〇
六月十日。〇

〇
〇
〇
〇

神尾市郎

系

元祿二年八月十日。〇
〇
〇

實神尾伊勢守

神尾市兵衛 幼名之常

元連

幼名朝元隆

元連之上年二月朔幼名曰十六未
二月廿百家督寄合。至永元二年六
月百世姓組。曰曰。本年三月百有九
出流。曰六月九年九月病免。正德
二上平六月百有九病免。後七歲葬地曰上

元壽

實神尾伊勢守
神尾伊勢守

幼名由方

正德三年九月百有九家督。享原八
知本年二月幼名。幼名。曰本年十月九日
組。曰本年十一月十九日。同十九日
二月廿百有九。上覽七。曰廿
四年。正德三年。百有九。曰廿四日。最
曰本年二月廿百有九。曰廿七日。本年
廿九日百有九。幼名。神尾伊勢守。曰

十九年八月十日... 十月十日... 十一月十日... 十二月十日... 二十一年八月十日... 二十二年八月十日... 二十三年八月十日... 二十四年八月十日... 二十五年八月十日... 二十六日... 二十七日... 二十八日... 二十九日... 三十日... 三十一日... 三十二日... 三十三日... 三十四日... 三十五日... 三十六日... 三十七日... 三十八日... 三十九日... 四十日... 四十一日... 四十二日... 四十三日... 四十四日... 四十五日... 四十六日... 四十七日... 四十八日... 四十九日... 五十日... 五十一日... 五十二日... 五十三日... 五十四日... 五十五日... 五十六日... 五十七日... 五十八日... 五十九日... 六十日... 六十一日... 六十二日... 六十三日... 六十四日... 六十五日... 六十六日... 六十七日... 六十八日... 六十九日... 七十日... 七十一日... 七十二日... 七十三日... 七十四日... 七十五日... 七十六日... 七十七日... 七十八日... 七十九日... 八十日... 八十一日... 八十二日... 八十三日... 八十四日... 八十五日... 八十六日... 八十七日... 八十八日... 八十九日... 九十日... 九十一日... 九十二日... 九十三日... 九十四日... 九十五日... 九十六日... 九十七日... 九十八日... 九十九日... 一百日...

十九年八月十日... 十月十日... 十一月十日... 十二月十日... 二十一年八月十日... 二十二年八月十日... 二十三年八月十日... 二十四年八月十日... 二十五年八月十日... 二十六日... 二十七日... 二十八日... 二十九日... 三十日... 三十一日... 三十二日... 三十三日... 三十四日... 三十五日... 三十六日... 三十七日... 三十八日... 三十九日... 四十日... 四十一日... 四十二日... 四十三日... 四十四日... 四十五日... 四十六日... 四十七日... 四十八日... 四十九日... 五十日... 五十一日... 五十二日... 五十三日... 五十四日... 五十五日... 五十六日... 五十七日... 五十八日... 五十九日... 六十日... 六十一日... 六十二日... 六十三日... 六十四日... 六十五日... 六十六日... 六十七日... 六十八日... 六十九日... 七十日... 七十一日... 七十二日... 七十三日... 七十四日... 七十五日... 七十六日... 七十七日... 七十八日... 七十九日... 八十日... 八十一日... 八十二日... 八十三日... 八十四日... 八十五日... 八十六日... 八十七日... 八十八日... 八十九日... 九十日... 九十一日... 九十二日... 九十三日... 九十四日... 九十五日... 九十六日... 九十七日... 九十八日... 九十九日... 一百日...

口二年平定府長官神國門前川邊見
 三國口二年十月廿五日獲賜。○新口
 二年三月有腹急令。成月不須法有
 之御所一日平日
 濟國通者口二年六月廿五日
 有德院神所送集神法重口。七月廿
 獲賜。口二年三月廿五日
 口二年三月廿五日
 獲賜。口二年三月廿五日

口年七月廿八日最德者受御書。口年
 口年六月廿五日有口年七月廿五日
 改口口口口口口口口口口口口口口
 合。口口口口口口口口口口口口口口
 口口口口口口口口口口口口口口口口

元篤
 神尾市口口口口口口口口口口口口
 口口口口口口口口口口口口口口口口
 口口口口口口口口口口口口口口口口

昭和元年 日本 六月 以 日 家 督。以 二 國 事 十
 一 國 者 而 凡 皆 書 院 者。以 治 夫 年 十 六
 十 六 日 大 陸 國 代。以 子 年 二 月 以 是 日 報
 日 年 九 月 九 日 有 由 廣 洋 湯。安 永 二 年 年
 正 以 有 廣 湯 者 十 二 月 十 六 日 有 衣。以 三 日 變
 七 月 亦 七 日 有 衣 者 合。以 九 年 年 以 日 會
 德 在 利 發 樂 心。以 安 政 元 年 年 十 年
 有 病 死 者 德 氣 年 地 日 一

元傳

實多志有法子及他官
 神尾市江馬 初 洋 幕 使 助

昭和元年 日本 正月 廿 日 幼 兒。安 永 九 年
 年 十 月 廿 日 家 督。以 天 明 二 年 年 以 日 會
 日 初 凡 小 姓 組。以 六 年 年 國 十 月 廿 日 會
 正 九 初。以 年 十 一 日 有 功 之 大 局
 上 院 凡 海 院 也。以 安 政 元 年 年 以 月 十 日 會 院
 以。以 年 十 二 月 以 一 日 有 衣。以 凡 年 十
 月 廿 日 有 衣 者 德 氣 年 地 日 一

神尾安次郎

元孝

寛政六年六月廿八日初見。八月辰年
十二月廿七日家督。八月九日辰年八月廿七日
書院者。八月廿九日辰年八月廿九日辰年
上院洋船。八月廿九日辰年八月廿九日辰年
的 上院洋船

子七百名 上院洋船 中月

高直五持

家後曼相 萬

源姓 神尾

滿仲公神尾能彈弓松宗十二代

神尾孫年

正任

織田信長公御末弟也

權左衛門正任天正十一年尾張出校

西行合 正任正任因年四月九日廿八

山口陣之長河死

神尾治直

長河

意

長河は神尾治直の長子にして、
長河は神尾治直の長子にして、
長河は神尾治直の長子にして、

長河は神尾治直の長子にして、
長河は神尾治直の長子にして、
長河は神尾治直の長子にして、

意

神尾治直

神尾治直は、
神尾治直は、
神尾治直は、

意

神尾治直

神尾治直は、
神尾治直は、
神尾治直は、

元禄七戌年
 二月
 控置後依此所告の申渡并物取付
 年十二月三拾後出加指の定形二箇
 年八月原小常法の申渡申年一
 里二月今より此後之歳日申年一

心傷

元禄十寅年 四月廿九日
 卯年十月廿九日
 二月病中
 日身身身

渡
 実国中に古あり
 神尾長吉

心傷

神尾長吉
 神尾長吉

享應六^{書字}廿年十一月廿九日
為元正曆元年七月
元正曆二年正月
元正曆三年九月
元正曆四年正月

元正

神尾正信

信長

元正元年十一月廿九日
元正二年正月
元正三年九月
元正四年正月

元正元年七月廿七日
元正二年正月
元正三年九月
元正四年正月
元正五年正月
元正六年正月
元正七年正月
元正八年正月
元正九年正月
元正十年正月

元正

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

高野首尾 家後丸内蔓柳

有木形

横木凡

神尾

古備人百十代公前神職知納金尾依

元久二代源公高公及士將原公次神尾

之孫公賜

神尾店在邊

元久

今川氏群之部仕

神尾長太郎

久吉

三川家

神尾孫太郎

忠重

甲州武田氏族一系長子(長子)家繁。

天正六年七月有西元

長谷川家後長女

長谷川家後中州住居。天正七年

長谷川家後長女(長子)家繁

長谷川家後長女(長子)家繁

長谷川家後長女(長子)家繁

長谷川家後長女(長子)家繁

長谷川家後長女(長子)家繁

長谷川家後長女(長子)家繁

漢中入秀松公等造殿中... 德和初也相... 建世仇之後... 公中備多... 叔漢德... 元和二年...

七百

符似樣... 尾邊... 向...

洋烟... 之... 天... 漢... 六... 東... 田...

石濱部山田氏

石濱部山田氏之傳家 位在京...

林重田例... 二位...

勅許... 河...

之括別... 勅...

采...

遊...

屏...

〇...

台...

大...

中...

御...

舟...

台...

〇...

酒...

之...

津尾... 御...

雲光院宗師... 香真白銀子... 勅筆... 川...

法若...

神虎利經補

幼名...

守世

幼名宗

長正七年...

行現...

台德院...

度長...

之後...

本...

台徳院様御朱事不承致之候病免河原
 備事与山に修程是門候此如御徳
 此ホの仕旨法御行候事 謀仕候
 御牌物未洋願。寛永水年 行年
 中宮と云は清馬と依事。此後
 太徳院様御田川邊 御感也依事此中
 ひえの御傍む三川の江舟洋候。寛永
 十三年七月朔日通海式。此子當候
 寛永御朱事不承致之候病免河原

与中宮御朱事不承致之候病免河原
 此中宮御朱事不承致之候病免河原
 此中宮御朱事不承致之候病免河原

神尾富高 初猪助

守勝

寛永御朱事
 此中宮御朱事不承致之候病免河原
 此中宮御朱事不承致之候病免河原

 寛永御朱事不承致之候病免河原
 此中宮御朱事不承致之候病免河原
 此中宮御朱事不承致之候病免河原

為細出於。之後預。每。二。石。之。月
為。所。所。之。好。或。老。百。石。以
下。次。田。里。亦。以。運。守。後。上。百。石。地。之。兼
應。以。奉。子。二。月。十九。日。宿。九。年。國。壽。地。行
上。

神尾豐高

守重

寬永十三年七月新祝子名以言意若

○日。十。三。日。五。年。四。月。九。日。百。石。九。石。名。成
善。地。日。上。

神尾任傳

守政

寬永永六年七月

台。德。院。極。

大。融。院。極。上。初。見。○。日。十。三。日。五。年。七。月。新

規。六。百。石。○。日。十。六。日。五。年。七。月。○。日。十。三。日。五。年。七。月。新

寛文十一年六月以兵部左巡見御
 同年六月廿二日出立七月廿二日御湯
 〇此年九月廿八日自出御湯
 附。此年六月廿二日自出御湯
 十六日自出京十二日自出御湯
 〇此年六月廿二日自出御湯
 〇此年七月廿二日自出御湯
 〇此年七月廿二日自出御湯
 〇此年七月廿二日自出御湯

〇此年六月廿二日自出御湯
 〇此年七月廿二日自出御湯

神尾常守

功
 精馬

守好

〇此年六月廿二日自出御湯

〇此年六月廿二日自出御湯
 〇此年六月廿二日自出御湯
 〇此年六月廿二日自出御湯

守好
 〇此年六月廿二日自出御湯

於以... 宣和... 宣和... 宣和... 宣和...
 宣和... 宣和... 宣和... 宣和... 宣和...
 宣和... 宣和... 宣和... 宣和... 宣和...
 宣和... 宣和... 宣和... 宣和... 宣和...

守後

神尾忠尚

幼平忠尚

父守後之子名... 內之百石... 池邊...
 組。天和二年... 病免... 日本...
 二百石... 病免... 池邊...

系

神尾忠尚

天和二年... 病免... 池邊...
 二百石... 病免... 池邊...

与親

神尾忠尚

天保二年... 病免... 池邊...
 二百石... 病免... 池邊...

病死年百四十一

神尾理之助
實藤田年人小男

守勝

寛文十^成年家督出書院番。之後病
死

与尹

神尾理之助
初之孫

急事子家督出書院番。之後病死家
縁込不知享保三上月下分相及

神尾玄徳
初之孫

守部

初守宗

延宝之卯年二月廿八日歳分初見。
之縁元春年六行有初屋作相之間
早古山田本之百歳。卯年十有初屋姓

元連

初守宗
元連

元連身百有之長
言若口早身神尾
重徳元定春子成治
口身三月廿二家督
年百有之長

神尾仔系

初 猪助 未如

守盈

元文二年九月二日

竹末代様御官末之左侍馬場左兵衛

口十八日得旨九月廿七日口付之官人三

上平十二日口付九月廿七日口付之官人三

口廿九日口付九月廿七日口付之官人三

元文二年九月二日

三層二年十月二日
守盈
未如

元文二年九月二日
口廿九日口付九月廿七日口付之官人三
口廿九日口付九月廿七日口付之官人三
口廿九日口付九月廿七日口付之官人三

守高

神尾量後与 幼宗

天明二年九月廿七日

口廿九日口付九月廿七日口付之官人三

口廿九日口付九月廿七日口付之官人三

口廿九日口付九月廿七日口付之官人三

東照宮時代

神尾

賀茂姓

高百太郎

家及丸内 蔓 椰葉
綾若木凡

鴨建爾身命後胤神尾名在る

之者男

長太郎

久吉

今川家より江のり武田氏族一條名

互史より江

忠重

孫多晴

一条右大臣家小江の孫多晴七月廿九

刑部少輔 多晴

守世

幼久宗

天正十一年母河原宗久小左衛門
淡村入道宗久

名徳信成宗姓の孫多晴九年九月
美田清陣は信成の太坂の五郎陣
にもあつたし本戸にそそめつた
河原と清陣は多晴とあつた
と
名徳信成より書状に多晴は信成
の孫とありし事多晴は宗久
宗久は清成の孫とありし事多晴は
信成の孫とありし事多晴は信成の
孫とありし事多晴は信成の孫とありし事

元和元年一月廿七日聖旨御大乃書
口は行多支前は補口は二年正月
東照文を令の格のそに知り示す法
國令親村のそ旨の清信と飲
口は七年正月は八年正月は令
名酒は飲は飲等の口は種清信の
系と飲ととと名定書は腰肉は後
清刀國幡清系堂清系入利休
大節は系扱は飲。寛永二年

三月廿日御知と石の清系下
と初介の由物知りも家系
高田清信守徳正持
○寛永三年
年行會のそは清系は

中宮の位也

東照文清石のそ文は神 清系

清抄内は飲のり清門をそは
細い

東福門は清系示す法も一蚊は
平定は清系夜中神は河系

飲の品 守修所 〇病老〇寛永
十年八月廿日死 〇様兼 〇保川
雲光院 〇葬

守繁

未女

尾法大内之殿はのり 〇和智大内
には之程 〇家断絶

守勝

官内少輔 徳助

慶長二十年一月九日新 〇名
〇小姓 〇名 〇名 〇名
〇名 〇名 〇名 〇名

以幸の時

大猷 〇名 〇名 〇名 〇名
〇名 〇名 〇名 〇名
〇名 〇名 〇名 〇名

景以守小弁

大猷は後清業

木兔の所画有伝

今中野山守と名乗る
此伝今も在り母陵所

守重

豊前守

大猷は後より伝知の所為中世に

長らく山脈者の實に水公年十有

二首叙壽の以高年四月九日死

守重

景以守小弁

守心

河内守

実守昭 男

守心末期の山守重子の事

上守の事通人伝に地收云と

信守市京天得二郡の事りに

五百石あり

守後

大正

多知三首石○山莊理○天和二年
有月之北日於七条深川雲之院
小算

某

次所古

貞享二年一月廿七日死○某
家新地

守親

大正 初之所在也

之保文元年六月廿九日○喜保二
年十一月八日小算清天師傳
席之書之加三石他之初行古
故之北進致○日十年七月廿日
文昭院殿山法事此致小田光信片
日十年一月廿九日死深川雲之

高百五拾俵

家教丸内曼椰葉

枝葉丸

加藤姓

神尾

鴨建角身命後流神尾長常

久吉湯

神尾中尾

法名傳也

忠依

甲州今利松本京倉子

神尾十郎兵衛 幼孫云文

忠孝
幼孫

建寶七年十一月廿日
定。自享子二年十一月廿日
永之申年十一月廿日
御宮新祝也
之申年十一月廿日
見之申年十一月廿日
上寺也

○心徳
口及
乃
大

神尾十郎兵衛 初布之席

色高 源右衛門

元禄十五年九月

忠徳
田安

定○享保元庚午九月關東方岳道
川除令○并○奉國巡見用○日本
日本方關東筋川除書清而見
用○日本之○日本之○日本之
及所○入用方見也○味用○日本
同十月十九日漢書○日本之○日本
主○日本之○日本之○日本之
漢書○日本之○日本之○日本之
十席在焉○思未欲拂○石在公後○日本

後分日本之○日本之○日本之
今書及○日本之○日本之○日本之
用○日本之○日本之○日本之
自○日本之○日本之○日本之
人○日本之○日本之○日本之
文○日本之○日本之○日本之

小菅清入三善友 享曆二年八月廿五日廿二 曾後長
利發口口 享曆二年十二月廿七日廿二 曾後長
病死安地 口口口口 曾後長

曾後長
神尾市市 初尾市

忠厚

享曆二年八月廿五日廿二 曾後長
六月廿五日廿二 曾後長
方病免 口口口口 曾後長

心初 曾後長 初尾市

曾後長
神尾市市 初尾市

久教

享曆二年八月廿五日廿二 曾後長
十二月廿五日廿二 曾後長
初尾市 初尾市

病死葬地白之

津尾虎之助

久高

安永五年十一月廿八日 承督。寛政

四年九月廿七日 卯辰。以八辰奉行

六百四拾之〇日 早奉者古御所者

三百拾後

高野三福後

家後丸内曼柳葉

後兼承以

加茂姓
神尾

神尾角身命後流神尾石屋

元守之子長太郎之右文子九郎

今川氏輝之左後中川氏田代

住長太郎之右長太郎之左太郎

長子藏松太郎後中川氏後長太郎

久高後

正春利家感
同如夜

大坂東門陣之役
二年三月上徳七條女園内九府
三子石米志次女一區同中諸云
安永六年六月海道國云

後以棟安 忠告切米公百後甲遊全
中取万口山山石地物御試官果
惠正五年神田屋敷内人右在後
御代官云云以米之改神尾清俊國
本年七月上者高北七在二歲甲府云

元新所光氏等集

神尾常信

切原重

後吉

義惠二年本交因忠信家
館林宰相御附。寛文十一年三月
古中病死

赤館林地
寺子

心春之別家威
同甘政

裏面白紙

大坂御陣之儀
二年十一月
三子石米志次
安永六年

中務方
惠正
御代
本年七月

免年所光天守

神尾常高
切原重

辰吉

美濃
德林
古打

赤館林地
寺

神尾嘉隆

八正春

慶安二年神田國政府令
在後諸般人等之在後之能
代官。言及九月二十日
有病

真地

孫正清の母正春八正去々々

神尾助正

辰次

寛文二年十一月
長谷部正隆
○正隆
丁卯二月
永正
江戶

神尾常忠
以上中

後輝

寶永八年十一月廿五日
本年十一月廿五日
元禄三年十一月廿五日
高免の定官子元子
本年十一月廿五日
本年十一月廿五日

神尾忠房

勝行

元禄三年十一月廿五日
十九日十一月廿五日
高免の定官子元子
本年十一月廿五日
本年十一月廿五日

後政

寶永九年十一月廿五日
本年十一月廿五日
本年十一月廿五日

神尾忠房
以上中

以万新署。以七。本年。正。十。方。高。元。早。区。藏。并。比。行。之。

津尾常務
神尾三郎

茂

以七。本年。正。十。方。高。元。早。区。藏。并。比。行。之。

茂
神尾三郎

茂

以七。本年。正。十。方。高。元。早。区。藏。并。比。行。之。

茂
神尾三郎

茂

以七。本年。正。十。方。高。元。早。区。藏。并。比。行。之。

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

其武集

有泉

口村如茂

家教書
九月十日

神尾

吉慶大倉十九代嫡孫始如氏神威
獨在也從元久元德中神者故後
河國法入其右既流如卷之三年源
弟廣公士者遊元久入其止右者慶
大臣素素如氏神威者一之
公卿日全入其神尾之孫
三慶公與輝住實元承中

心下

神尾道定

寛文二年平定後分半人組出来
甲午後之役口出人口如所定。
定宝二年十一月病死江户御
九山御心之集

心利

神尾市之史

延宝六年十一月十日如督之縁
七年平定後分半人組出来。
九年平定後分半人組出来。
九年平定後分半人組出来。

心易

神尾市之史

延宝九年十一月十日如督之縁
九年平定後分半人組出来。
九年平定後分半人組出来。

同十九年十一月五日午後九時。元文六年十一月五日午後九時。

奥州若狭守

津尾市守

正室

元文六年十一月五日午後九時。元文六年十一月五日午後九時。元文六年十一月五日午後九時。元文六年十一月五日午後九時。

元文六年十一月五日午後九時。元文六年十一月五日午後九時。元文六年十一月五日午後九時。元文六年十一月五日午後九時。

津尾市守 正室

正室 采女

元文六年十一月五日午後九時。元文六年十一月五日午後九時。元文六年十一月五日午後九時。元文六年十一月五日午後九時。

長定

神尾助六郎

口御及 兵少補方百中一と記の山田東洋因
ナ東少陣出候

古徳院様御代回公一平合致出補候。慶長
五年二月廿四日死

吉勝

神尾助五郎

口御代の口御代。慶長三年一月廿九日死河
東海守守候

長春

神尾助助

口御代三年三月廿四日。慶文七年
七月病免。元禄十五年正月廿九日死

春及

其在事也... 津尾... 某男

元禄六年正月十六日春及... 同日... 春及... 寺

春及

之... 津尾... 春及

元禄六年七月九日春及... 同日... 春及

同日七年正月... 元禄六年九月七日... 同日... 春及... 同日... 春及... 同日... 春及... 同日... 春及...

水取向并小登之水取、
津城外水取不並合
張元洞在津海津在伏見寺長城山田水取
所水修復足分不水修復之寺社在悉
見分不作有以水取時版三羽打合千枚。
日年十二月廿二日均同日、津若水取

石出見分之版委細、津尋有之具言上
○日二年正月廿六日上方筋也利水用察令
十六枚。同年同十二月十二日水勘定不出
積和勤水務方之編定分有内版三

令方取。○日四年十二月廿七日津海御極
水領知別其外水務方骨打水修復
時版三。○日又辰年七月二日海道筋并
甲州門之道橋水重傷水用時版三。竟地
日未年二月廿三日長橋在約水有之
此黃河棠池之別名、申二年長橋在約
勤方之通是引下在方。○日年二月九日上所
准后津方水務局水取分有以米法申
若使方下水方。○日年六月廿日

有德院標 薨御身涉葬送御用。日月

晦日東殿也

常憲院標 涉臺屋也修復也

有德院標 也宝塔 涉廟 涉拜殿也造管

涉用同身七月六日 涉葬送御用也發受

御振也。宝曆二申年二月十六日涉加増也

百名。同年四月秋日紅葉也

為憲院標 也臺屋也修復御用是也。御服也

。同年六月廿日右東殿也御用也。御用也。二月

御服之令七枚。同日之自年六月廿日死。卒

七葉同寺

美不為房也即政友也男

春由 神尾若狭守 六郎也弟 也。二席

享保廿卯年十二月九日卯年。同立。辰年

二月廿二日初也。宝曆二酉年八月之也。後

。同年十一月八日也。小收組。。同日也。年六月廿

八日也。改。同九年十二月十五日也。新也。書也。。

明和元申年二月廿六日克家。同年正月
廿九日於日光表。正行宮相海山。時後二。
同年六月廿日初。初。時服二羽。令教
詣古史。同二百年四月
神祇忌百奉田。神忌先格。通見是表
有人相詣。臨時。有。同年二月十五日
也。時後二羽。同年四月。法。相海山
時後二。同年六月。也。時服二羽。
令之教。同三戌年四月廿二日。小童。信。配。

安永七戌年十二月。西丸。也。居。同
八亥年二月廿二日

孝恭院標 堯冲。西丸。也。殿。也。

天明元丑年。同六月十八日

美若標。同年十一月八日。涉。也。骨
折。有。時後三。寅。亥。子。年。二月。晦。日。死
七十二。集。同。寺

春始

美大之保延(馬)忠彦二男

神尾太郎二郎

玄彦

明和元年申年九月十二日拜貴子。同七年
四月四日初見。安永六申年十二月十九日小
性組。寛政四年四月四日家替。同八
辰年正月十一日使番

春時

銀造

美大之保延(馬)忠彦

寛政三年三月廿八日拜貴子。同九年十月
廿五初見

高百俵

家後元内横流

葛相

石京此

神尾

三河國有人神尾在百俵利物取

利晴

神尾在百俵

法康孫

控記極之西作事方以始人全此弟殺

漢不事判初

長史

神尾隆正

長史の任に就くは、
元禄二年二月、
長史の任に就くは、
元禄二年二月、

長史

神尾隆正

長史の任に就くは、
元禄二年二月、
長史の任に就くは、
元禄二年二月、

長史の任に就くは、
元禄二年二月、
長史の任に就くは、
元禄二年二月、

長史の任に就くは、
元禄二年二月、
長史の任に就くは、
元禄二年二月、

長史の任に就くは、
元禄二年二月、

長史

神尾隆正

長史の任に就くは、
元禄二年二月、
長史の任に就くは、
元禄二年二月、

若者有後縁而為也移流之書也附也書院
書の^{〇家書}書院文子之書年二月廿九日
日守書

長考

神尾忠重の 教母

寛文十一年年十月廿九日
本年六月廿九日
日守書

此書の正徳二年六月廿九日
正徳二年六月廿九日
日守書

長考

神尾忠重の 子守書

寛永十一年六月廿九日
日守書
寛永十一年六月廿九日
日守書

寛文三年九月八日死 年七十五 葬 野

長好

神尾長次郎

寛文三年十一月十日 葬 野

曆八宮二年二月 葬 野

長則

寛文三年八月 葬 野
神尾子 葬 野

神尾子 葬 野

宝曆八宮二年十一月十日 葬 野
元年四月十日 葬 野
二月十日 葬 野
二月十日 葬 野

一 某

式部

寛文三年七月六日 葬 野

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

源光

神虎

高岩

家茂
家隆
家範

先祖不詳

神虎在正

房成

今有義元在好信或在勝頼邊
將現掃之
吉上進之條之草案書想於
大南系
御前
尊
允

保重

神尾正行

権現権初巻後巻 神尾正行の著

台西院権初巻花細書。神尾正行の著

日光 門社系初巻 神尾正行の著

後巻 神尾正行の著

。初巻百名目録あり。神尾正行の著

。言及十一巻年行長九ノ孔著傳正

洞院系

高久

神尾正行

大敵権初巻十二巻 神尾正行の著

。初巻。神尾正行の著。貞享二年

二月二日死す

系探

神尾正行

貞享二年 神尾正行の著

十五年 二月廿日 神尾正行の著

元又三二年二月庚子陽為青子の日
年宵言夜名少書法。言係元
五年九月有。七千人。言曆七五年
病加心言法。由和五子年三月庚子
死四十六系蘇口也。

乃祥^{ヨシ}

神虎綿^ニ也

由和五子年六月之。夜名。天由元
五年十月十七日。少十人。言比度年宵

十七日新番。日七五年二月庚子日死
三指の系蘇口也

係^{ヤス}敷

神虎三^ニ者

言比度名 夜名

五月七五年六月。言夜名少書法

東照宮神代

神谷

藤原姓

高平石

家教
少藤内史
藤原内史

先祖奉旨宮坊定後想谷事詳

大藏冠藤原三子天守都宮守藤原
尉朝綱流神谷有見守子朝任前
攝海部河津堂色其子孫同國朱
谷保色住神谷守國宗法卷子

清波

東照宮

延五所

天正五年秋新國中發生二年之時
東照宮宗卷首為子指宗家時
卷文有從離者清波擊殺事後

延
同五

東照宮海有 所感賞。元龜三年
十月是所味多系 所感對轉所

唐國一曰進得首級有所稱羨藉
買文我採領。天正三年五月三所
長藤山傳。古得首級五藉費文。其
也。也。

東照宮於遠所 廣名進 所制禁事
寺門渡時 大野清國門渡其古故
上意林行空國一可擊。自 作身
清波村代討所 則其首就隨松

東照宮遷 宣覽清波故有及下遷 中感
天正九年三月天神所傳信事。日十年
甲州所傳信事。日十二年尾州長文
子所令戰村村屋處。同戰身得最
東照宮遷 中感或指其之地所傳。天正
十八年苗原中陣。相和口兩城番
勤。日十九年鳥羽中陣。屬中。少勢
心純起。鳥羽。長五年。苗原。或謀

致。村屬。多。少。勢。女。心。純。到。津。河。南。原
所傳信事。年月日不考

東照宮 所看表押領。是。念。忍。持。元。和。平
信。德。院。敷。食。也。上。置。天。板。所。傳。信。事。所。屬。酒
井。後。院。等。山。所。城。中。田。等。庄。也。宣。永。元
年。十。月。九。日。指。表。等。元。和。平。所。相

定院

清心

興七郎

天保十一年秋屋外其後年亦青寮

東照宮初内見。日保八年。由原陣

内見。日保九年五月十七日迄

東照宮初或百石。内見。日保九年

尖之由。尚州。日保九年。日保七年。日保九年

内陣。日保九年。文保元年。日保九年。内陣。日保九年

刻肥。亦名。各屋。交長。五年。其。上。意

台。意。遠。殿。其。在。大。坂。兩。陣。山。宮。寺。也。日。保。元。年

永三年。其。台。屋。

大。藏。院。殿。寺。也。日。保。元。年。七。月。十。七。日。日。保。元。年

深井村。寺。也。或。百。石。名。同。日。保。元。年。日。保。元。年

村。寺。也。其。指。石。持。領。日。保。元。年。日。保。元。年

鳥。籠。院。殿。寺。也。其。在。金。白。銀。寺。日。保。元。年。日。保。元。年

寺。也。其。指。石。持。領。日。保。元。年。日。保。元。年

買其老父家督家令。○日年六月廿三日
初之。○日年甲子年安房國言
我武名年并九合中後言言百零八年
答拜領。言保十年二月宮在莊
言來葬口寺

清明

樂七郎

左吉

實後合言次道富言
身月言言言言言言。言保十年
初之。○日年八月廿三日言言言言。○
言保元年九月廿三日言言言言。○日年
十月廿五日言言言。○日年言言言言。○三
言言言言言言。

晴後

大和

龍内

樂浪

休前

道前

寛保三年八月

寛保三年八月二十日

○日年九月十日

○日年十月十日

○日年十一月十日

○日年十二月十日

○日年正月十日

○日年二月十日

○日年三月十日

○日年四月十日

○日年五月十日

○日年六月十日

○日年七月十日

新山服。○日守年七月朔。○年府拜瑞
○日年十月廿五。○没河。○明和年
十月廿八。○年府拜瑞。○日年十月廿五。○
德山服。○日年十月廿八。○年府拜瑞。○
○日守年八月十五。○大坂。○日守
十月朔。○山服。○日守。○安永三
年十月朔。○年府拜瑞。○日守年
十月朔。○日守年十月朔。○病免

宗合。○日守年八月十五。○致任。○天明
二年四月朔。○死。○籍。○葬。○葬。○日守

清形

與七所

八年

実徳山主藤忠三男

寶曆八年二月廿六。○智。○卷。○安永
二年八月廿三。○家。○日守年十月廿六

初之。寛政八年八月十二日。葬于
日寺。葬。

清鏡

無七郎

藤吉

寛政八年十月五日。家督。葬于。日寺。
十月廿五日。初之。日九年十月。日寺。
葬。

東照宮内代

神石

藤原姓

高武原

天夜丸内。藤原。名。

先祖不詳

信光

傳左衛門

東照宮内代。由。傳。由。後。名。書。

○元和八年死年餘葬不孝

信高

傳在傳門

元和年中其弟所入トト也

若若所。云云安四年亦格出教

宰相殿中其臺所頭或言是也扶持。

寛文四年致仕。以八年二月廿九日死

年餘不孝漢身亦願壽中徳也寺

葬

先後

傳在傳門

寛文四年家者加秩累俸命會而四

指儀四扶持。正保八年西丸中其臺所

頭。天和三年中其丸中其臺所組頭

○貞享四年七月七日。先年於石寺葬
四谷戒行寺葬

傳(多)傳(多)

信豐

貞享四年十月九日。家督。書。羅儀
四林坊内。羅儀。四。扶持。多。知。元。福。元
年。所。隱。所。其。書。言。○日。三。年。日。安。組。以

○日。七。年。九。月。廿。日。其。書。素。頭。○元。福
九。年。十。月。九。日。先。年。於。石。寺。葬。早
本。願。寺。中。德。在。寺

傳(多)傳(多)

信豐

元。福。九。年。十。月。廿。日。其。書。素。頭。其。書。所
到。支。那。之。後。○元。福。十。年。二。月。七。日

善清。日年二月廿九年齡
不知葬日等

信起

孫左衛門 貞七郎 涼山

實傳豊三男

享保二年七月五日急卷之家督
。明和七年十月廿四日薨。享年六十人

。日年十月廿七。病免。善清。
日九年四月十日薨。寛政三年
二月廿七日。葬之。身葬。日等

信古

傳三郎 内膳助 伴藏

明和年四月十日家督。安永八年
正月廿七日薨。日年二月廿九年

三修家葬口寺

汗衣園門

傳布所

信門

天明元年閏五月五日家葬。八月年
九月十五日未十人。宣統二年正月某
日壬戌的附服二其後三度。日五年
正月九日所賜示書。南的及物。日

天明元年閏五月五日家葬

七年正月某院念剛書及物。日

七年十月五日世信。島村山口時

服三

台榭後殿内式

神谷

藤原姓

高四石

家教中藤原内上卿九上羽上塔

神谷権殿由次會

八百四門

次
重

初教重

元和七年聖智賀。寛永元年

△大藏院御行狀
御書後

重芳三新祖也。中世祖武百保。
○時斗間古勤。○新中世祖也。○寛
永十年加秩武百保。則地方。皆合四
百石。延宝二年二月七日。七格武百
保。辰龍昌寺葬。

保教

源三郎

年月。不考。重芳三。家督。○中世祖
○相之間也。○中世祖也。○
元禄七年。病歿。○口十年
閏百廿。先立格七年。口寺葬。

保包

保八郎

天和二年七月十百初見。元禄

享保十九年九月廿五日
享保二十年八月廿五日
享保二十一年九月十日
享保二十二年七月廿五日
享保二十三年八月廿五日
享保二十四年九月十日
享保二十五年十月十五日
享保二十六年十一月二十日
享保二十七年十二月二十日
享保二十八年正月二十日
享保二十九年二月二十日
享保三十年三月二十日
享保三十一年四月二十日
享保三十二年五月二十日
享保三十三年六月二十日
享保三十四年七月二十日
享保三十五年八月二十日
享保三十六年九月二十日
享保三十七年十月二十日
享保三十八年十一月二十日
享保三十九年十二月二十日
享保四十年正月二十日
享保四十一年二月二十日
享保四十二年三月二十日
享保四十三年四月二十日
享保四十四年五月二十日
享保四十五年六月二十日
享保四十六年七月二十日
享保四十七年八月二十日
享保四十八年九月二十日
享保四十九年十月二十日
享保五十年十一月二十日
享保五十一年十二月二十日
享保五十二年正月二十日
享保五十三年二月二十日
享保五十四年三月二十日
享保五十五年四月二十日
享保五十六年五月二十日
享保五十七年六月二十日
享保五十八年七月二十日
享保五十九年八月二十日
享保六十年九月二十日
享保六十一年十月二十日
享保六十二年十一月二十日
享保六十三年十二月二十日
享保六十四年正月二十日
享保六十五年二月二十日
享保六十六年三月二十日
享保六十七年四月二十日
享保六十八年五月二十日
享保六十九年六月二十日
享保七十年七月二十日
享保七十一年八月二十日
享保七十二年九月二十日
享保七十三年十月二十日
享保七十四年十一月二十日
享保七十五年十二月二十日
享保七十六年正月二十日
享保七十七年二月二十日
享保七十八年三月二十日
享保七十九年四月二十日
享保八十年五月二十日
享保八十一年六月二十日
享保八十二年七月二十日
享保八十三年八月二十日
享保八十四年九月二十日
享保八十五年十月二十日
享保八十六年十一月二十日
享保八十七年十二月二十日
享保八十八年正月二十日
享保八十九年二月二十日
享保九十年三月二十日
享保九十一年四月二十日
享保九十二年五月二十日
享保九十三年六月二十日
享保九十四年七月二十日
享保九十五年八月二十日
享保九十六年九月二十日
享保九十七年十月二十日
享保九十八年十一月二十日
享保九十九年十二月二十日
享保第一百年正月二十日

保祖

金次郎

享保十九年九月廿五日

享保二十年八月廿五日
享保二十一年九月十日
享保二十二年七月廿五日
享保二十三年八月廿五日
享保二十四年九月十日
享保二十五年十月十五日
享保二十六年十一月二十日
享保二十七年十二月二十日
享保二十八年正月二十日
享保二十九年二月二十日
享保三十年三月二十日
享保三十一年四月二十日
享保三十二年五月二十日
享保三十二年五月二十日

保治

德政

享保十九年十月廿五日

寛延三年二月廿三日。伊集院重直。實
曆七年九月九日。先之孫。九家。孫。孫。

大三年

重直

實曆七年十月三日。家督。重直。

明和三年八月八日。先之孫。九家。孫。

日守

谷四郎

保艾

實山。南。市。有。傷。門。政。因。四。郎。

明和三年十月廿四日。曾。急。卷。家。督。重直。

○日七年。三月朔。先之孫。九家。孫。

日守

教豊
八古島門

実服部一重古島門保春重

明和七年九月五日養子家督書請

。口八年三月廿七日書院者。天

明年四月廿四日格五身蘇口等

教彪

彌五郎

天明八年七月三日家督書請。寛

政元年四月廿六日西丸中書院者。

口三年四月廿三日中書院者。寛政三年

三月廿四日乱心仕出奉。口四年

四月廿八日格。口和。口国月十七日

口。口四年八月廿八日病。口書院

○日守年三月廿日。中里重馬。

[Faint, illegible handwritten text]

尾山等

文部院教授代

神谷

藤原姓

字七拾俵五人杖持

家紋 丸に月と羽蝶

非谷加右衛門某平農之升次某
よりそ後浪人三羽前等より死加右

某男

某

勘吉清

慶安三年四月廿日。右中、右七平俵

八人扶持。元禄二年十一月卷奏被任。
○同九年十一月九日死。

忠恒

清左史

元禄二年十一月清恒。○宝永三年三
月十常侍方定少卷吟味致。○享保九
年十二月十二日西丸山院目付组及。○元文
元年三月十二日西丸山院表出用建。○

延享二年九月廿五日山本丸勤。○同三
年四月廿五日山本丸勤。○寛延四年
二月九日死。八千九茶海門洋心寺矣。

忠吉

若十郎

寛延四年六月二日家修。○宝曆五年
九月廿八日初見。○同九年八月十二日小
十人。○安永三年十二月廿八日辞免。○

天保元年十二月十二日即位。享政二年
四月十九日死。年七十七。葬同寺。

忠儀

清吉史

天保元年十二月十二日即位。同八年
十二月廿六日初見。

神谷

言二百餘石

藤原姓

家紋

丸上羽蝶
洲濱

大藏冠禪足後亂三州任人神谷
惣左衛門某末流

直清

小作

永祿年中

東照宮上右出。礼沛腰物持。元龜

初日園費地百十石合二百十石石下並
旨沛朱平頂裁
岩有院殿沛代武及侍菓山増至同役
同公三人出取。○享保七年二月廿八日死
或取忠成專勝寺葬。

直次

實錄卷之六十五
作多傳

實文九年同十月初見也

見也。○享寶七年十二月廿六日死。直
文江也。○同九年八月十日死。同也。

直勝

小作

乙和元年十二月廿六日死。智。○同二年
二月廿六日死。○元禄六年四月廿三
日半人組。○享保六年九月廿八日死。
見也。○元文二年三月十日

西凡由裏法門書院○同年十二月十日
布衣○同三年六月朔○西凡附○寬
保三年四月十三日○善仁寺

九年左 小作

貞年

實與名元系直重次男

正徳四年十一月廿七日○同
十二月廿日初見○享保十六年十月

廿六日○西書○元文二年十月廿日
西書院書○寬保三年六月二日
○享保二年二月二日○記善仁寺

万助 小作

直泰

元文二年二月十日初見○享保二年
二月二日○西書院書○同三年六月二日
組及○安永四年二月四日○喪新三郎

出入一研落忘之旨由役所之通塞同
年五月十九日沙之○寛政三年十月
廿二日廿一系日寺

直方

少佐 万助

寛政三年十二月廿九日葬。同日
九月廿九日。同日九年十一月廿八日
仕

直温

少佐 万助

寛政九年六月廿一日葬。同日
五月廿八日葬。

高直五扶持

家紋石持内蝶

右様也

後原姓

神谷

今故文彦依神谷石見守高直五扶持

三河國八名郡神谷村今主神谷平右衛門

正任平右衛門正判男

神谷平右衛門

正親

元禄十丑年十月廿七日由信く右持
廣永七年儀由杖持口廣永二百年九月

女二日東殿心長昌院敷出佛由清用口
土月五日藤原宗子敷○日七寅年十二月
女九日山本林谷よ改○正徳二辰年八月
女六日山本目付○日八丑年十二月十八日
加授三平儀○享保元申年十二月十八日
小普信方改授○同之辰年十二月廿六日
山本石守り○享保三亥年六月廿日
富士見山本茂高○改○宝曆二申年
六月十日老免藤原令二敷○同年十二月

十四日藤原○同三酉年二月廿一日死
七十九歳○山本正應子小普信

神谷元左史

正信

享保二辰年七月十日初見○寛延二
巳年十二月廿六日大出敷○宝曆元申年
三月廿九日死○日守り

天保甲申庚子の事

津島丹波守の御書

補谷之九書

脩正

宝曆元未年八月廿九日庚子○同二
申年十二月十日○亥時○同八寅年二
月廿日表山太事○同年七月十二日卯丸
奥山右筆○同土巳年八月三日卯丸
表山右筆○同亥○同年十月

文昭院殿西千回山忌法事山用同月十日

養正山校○同十二年十二月十六日

孝恭院殿附奥山右筆○同和元申年十月

山校並山用日月八日養正山校○同六月

年六月廿九日山右筆法帖山用養

正山校○安永山申年十二月廿八日山

忌社系山用山校山用山用山用山用山

並進山用山

後明院殿山賀山校山用山用山用山用山

山用山用山用山用山用山用山用山用山

八日穴橋の山を納流瀧の山日記
月日同法より宿細二事と揚ぐる
同七戌年四月廿六日

孝恭院御清前髪より也より山用産後
敷。同八月廿年四月十六日山本九勤。日
十月より増上寺

台徳院敷山並屋山敷向並中雲三門山
修復宗源院敷 天英院敷山並
山修復山用同九子年十二月廿八日

銀十枚。同十廿年正月晦日八廿年

台徳院敷百五十圓山並山法奉山用産後
敷。同年二月九日山本九更山日記
法書之五曆十二年山本九更山日記
山敷。天明元五年二月廿六日表山本
年組久。日七未年六月廿二日

津代督且 山軍宣下山用産後
令つ敷時股二。寛政四年二月廿日
山天也。同八辰年十一月二日

免小童信。同月廿二日。寺。七千。第。同。寺。了。葵。次。

心氏

神谷平左衛門

言百俵。古。人。杖。抄。

明和七寅年十一月七日。初見。寛政二
戊年十二月廿日。表。右。第。同。己。年
同二月廿九日。表。右。第。同。己。年
年四月廿九日。表。右。第。同。己。年。

十二月廿七日。表。抄。



源姓

神谷

其九孫儀之持

家後四郎貞吉葉菊

神谷新七郎伴忠源之在頼政六男
少く若狭國神谷の所より住居家名神
谷と稱し伴忠より十三代の名足利家
より仕今川家より仕吉良家より伴忠
より十三代神谷五郎左衛門忠昌
長親より仕新七郎伴忠より十三代

忠次

神谷新七郎

新五郎

東照公之石出され奉仕不之戰場に侍奉
軍切ありし。免別園少く米地四百石と
約し。而も石相和し。忠次又七郎
喧嘩し。之と討之退く。依りて忠次
幼少尋て成侍付。是より時米地水云
等。是甲別く。義后先

某

神谷又七郎

出奔

忠榮

神谷助左衛門

元和八戌年。出仕。石出。少。寛永
元子年。伊佐目付。同。平。年中。根
等。後。書。云。此。國。目。付。子。付。下。野。國。板

中庄少將ノ加杖二百石ノ成○昭曆二
申年六月死ス

宗勝

祢谷助左衛門

勤之志不効

宗利

祢谷左左郎

勤之志不効

宗勝

祢谷左左郎

此分ノ次身不効

福教

祢谷清之郎

勤之志不効享保六年四月廿日
死守清之郎也

某

神谷甚太郎

早世歿

忠純

神谷庄左衛門

松平伊豆守信純、浪人、分限、勤仕
○天和二成年八月廿八日死、年六十

新嘉坡中長教寺、主

正位

正務

神谷玄左衛門

貞享二成年六月廿二日、松田、殿、新
嘉坡、中長教寺、主、被、損
○元、永、五、年
○元、永、五、年
○正、德、元、年、四、月、廿、二、日、細
○享、保、三、年、十、月、廿、二、日、免、○

同十八戌年十月四日死す同十八戌年

忠供

神谷連吉

月光院殿、新小石、丸信、忠を

立命せしむ

保教

神谷辨次郎

享保十八戌年十二月廿七日疾終。

元文乙辰年四月右馬守、後、西平人

組。同乙申年二月十二日右馬守、後、殿

、曾、西、筋、鷹、形、之、首、供、了、野、射、殿、同

月十六日、復、次、考、あり、〇、此、享、元、子、年

二月七日、死、す、同、十八、戌、年、同、十八、戌、年

実志村孫九郎某三男

神谷五郎左衛門

一、百、次、郎

正興

正徳元子年六月二日
 同三寅年六月十五日
 十二月十日
 二月九日
 四月十九日
 九月九日
 六月十六日

某

其神谷之系某之男
 神谷助五郎

其子辰

正直

其神谷之系某之男
 神谷德次郎

天四八申年四月
 二戌年七月
 七月十日

二天中為八保宗男

正好

神谷茂助

寛政二之亥年十月廿四日其子也。同日子年九月廿八日一統拜湯。同十年年十二月廿四日死。年廿四歲。同日也。茂助

二天信水也。二天信水也。二天信水也。二天信水也。

神谷太郎左衛門

寅三助

昌保

二天九年儀之杖持

寛政十未年三月廿四日其子也。茂助

高千穂保立持

家教九内上羽蝶

飛形鳳凰

源姓

神名

大和國十市郡神名之在者
極正意年中三三河國而
家盛五代宗新政勝男
極正意年中三三河國而
極正意年中三三河國而

神名新七郎

忠次

永祿四年

東照宮上初人奉仕而
或場由依三及者

正清

神谷忠清

家別

忠豊

神谷忠豊

室永元中平橋田中殿出陣由切存此信使
三人被討。同平十二年十二月一統小信使。同三
成平十二年十二月四日。又人出切存七信使文
被討。同七成平二年二月。

月元院殿由廣受命書。平保十文
同十八日死七十六歳葬此日。

忠敬

神谷忠敬 平八郎 忠敬

同平八年七月
奉命小信使。元文六中平十二年十二月十八日
元文院殿由廣受命書。同平八年七月
同平八年七月十八日

元文院殿由廣受命書。同平八年七月十八日

高橋。寛延二年二月十八日由信押
。同江永年二月廿日由信目付。宝曆
二申年十二月廿日由信目付。同由信
令指支。同大正年二月由信目付。同
指支。同年三月廿日由信目付。同
由信目付。同由信目付。同由信目付。同
。同年六月由信目付。同大正年八月由信
目付。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同
。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同

同由信目付。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同
。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同
。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同
。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同
。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同
。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同
。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同
。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同
。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同
。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同由信目付。同

延和四年九月廿九日... 六月廿五年六月
二十日死... 九歳... 門... 廿

忠篤

神谷庄吉 平八郎

延和四年九月廿九日... 六月廿五年八月廿日... 十二月八日... 延和四年...

延和四年九月廿九日... 十二月廿四日... 延和四年... 七月九日...

忠恭

神谷庄吉 初彦

延和四年七月九日... 延和四年...

正以庚辰日敬天園^〇辰年六月十日^〇三
宅^〇活^〇死

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

高百^〇籍^〇像

源姓^〇家^〇教^〇井^〇崗

神^〇名^〇霸^〇丸

神^〇名^〇次^〇所^〇行^〇次^〇男

勝^〇重^〇神^〇名^〇次^〇所^〇行^〇次^〇男

元禄十六年六月十日^〇新^〇祝^〇儀
田^〇山^〇殿^〇下^〇巨^〇出^〇三^〇礼^〇也^〇如^〇是^〇。高^〇水^〇元^〇申^〇年
十二^〇月^〇十^〇日^〇申^〇定^〇。山^〇極^〇元^〇卯^〇年^〇十二
月^〇初^〇十日^〇指^〇儀^〇百^〇十^〇後^〇三^〇人^〇持^〇持^〇了^〇如^〇ん

○同治十年十一月廿九日以後は格依治り月
俸も収ふ。享保八年祥免。同治十
六年十一月七日死六十二歳麻布
柿乃之孫

重治 平次郎

享保十六年十一月廿七日家名口千九
貞年八月十三日小十人。元文四年

六月廿六日死三十二歳新松比口

勝壽

夫勝直曾 平次郎 友次郎

急養子。元文四年八月廿一日家名口同
年十一月廿一日小十人。宝曆三年十月
十六日小言信方病口用を以て病を治
○明和六年九月十九日口決地五歳
○同治九年六月十七日死六十二歳新松比口

重政

神后八郎左衛門

慶長十九寅年八月廿九日入御者。後大御者。

寛文之五年八月廿三日死

重定

神后長六郎

正保己亥年十二月廿八日入御者。寛文之五

年御者。寛文九年六月十二日入御者。

延宝之五年十一月廿三日入御者。約證所用

至。貞享三寅年六月十日入御者。之祿六

酉年十二月廿三日死。其本領者申徳也。

葬

重義

神后長玄孫

天和二戌年六月九日初見。之祿七戌年

七月十一日入御者。同十己巳年二月十日入御者

○正徳三己年十二月廿一日二條左衛門尉死京於
日吉通了信寺葬

亞蕉 林谷長三郎

正徳己午年二月廿日葬於○享保十己酉年
七月廿八日死葬地 徳壽寺

亞信

享保十己酉年三月廿日葬於
神后權亮

享保十己酉年十月九日名譽子那務。同月十
日且死葬地同上

英連

享保十己酉年三月廿日葬於
神后權亮

新座 仔藏

享保十己酉年十二月廿六日名譽子那務。○
同十六己亥年八月十一日田安之助。○同九年九月
同小姓。○同十七己酉年六月十八日同僚。○同九年
者。○同十九己亥年六月十八日同僚。○享保三

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

○ 同

藤原姓

高武百五種集

家殺甲内上羽標

五三格柄

神谷

大職冠謙之後胤字於宮支流考河國任人

神谷不見高明末孫神谷御去清右久男

水野野信元家考

長直

神谷合七席

水野和泉守忠重三仕。天正十二年

東照宮豊后守左尾州長久手子河野對藤

時秀長より忠告と招る忠告家入等と集評
後あり長直をとり

東照宮後をとり 諫 忠告許儀郎

長直と漢松より 長直許儀郎

如く事の子細と言ふ

東照宮許儀郎小雅の破馬と所以秀長と

合戦のとき世馬より 士卒と進退す

命より合戦時秀長本末御巻と破水地

佐渡の長直御巻と討取。文徳二年正月是年分

三正 神谷左馬助

初水野和泉守忠告より仕。小牧清陳の時

甲首二級と坊。慶長十一年正月廿七日

右徳流の御巻より 右如くこれ大徳者。元

和九五年正月廿八日

大徳院及御巻御奉。其後小徳徳。孝文

安二丑年十月廿八日死

三盛

神谷小左衛門

寛永十六卯年七月廿二日初見○同十七辰年
四月廿日大御着○正保二酉年六月廿八日納
戸役○同年九月九日

大藏院敷納戸役可勤世系
病免○寛文之丑年十二月十三日死市上谷袋町
上意○其後

蓮秀寺葬

直好

神谷金七郎

寛永廿未年二月三日初見○正保己亥年十二
月廿六日大御着○寛文之丑年九月十二日初
見着○延宝己辰年四月廿日死葬地同前

直定

神谷忠右衛門

一外

延宝己辰年七月十日父が病。天保三亥年
 閏四月廿一日大御書。正徳九年八月廿五日御
 札本石奉行。享保三戌年三月廿二日同役同
 小書法入。同七寅年七月十一日湯屋。同十八
 戌年五月九日死。子あま華葬地同。

尚陸

実神格合七帝世好地男
 神谷又弟一郎

宝永七寅年六月廿日見。養子。正徳三己年

六月十一日初足。享保七寅年七月十一日御書
 〇同九辰年十月十一日大御書。同十八寅年
 十二月廿八日病免。寛保三亥年六月十二日死
 子あま華葬地同。

近宿

実神格合七帝世好地男
 神谷忠右衛門

楚山

見。養子。寛保三亥年八月二日御書。延享元
 子年十二月廿七日大御書。宝暦三酉年七月十

八日所賜和方。○同治戊午年正月八日高元。○天明
之丑年十二月十二日所賜和方

和方

和方右在門

子也百中係

年七帛

天明之丑年十二月十二日所賜和方。○同治戊午年十
二月廿七日所賜和方。○寛政元年二月廿七日所
賜和方。○只年甲子年所賜和方。○早年二月
末大西所賜和方

高武保

源姓

家致丸南井尚
鶴丸

神谷

神谷豊茂正勝長男三州佐神谷全在馬

正勝次男

神谷大玄清

初正信

勝致

初三州佐。○寛文之五年二月松田所賜和方

○同年所賜和方。○延宝己巳年六月所賜和方

○後長政。○同八申年二月濱松所賜和方。○元禄

十二辰年七月二日死六十八歳麻布今井町
園林寺葬

義勝

（祇衣市帛右邊）

之稱二己年七月五日小十人○同十二年三月大百保之入持○同十五年

月六日松田所及造管の奉行○同十六年

七月十二日小十人及改加秩百保合々祇百保

○同十六年九月朔松田所度及改

宝永三戌年七月廿七日西九所腰相方○

同六丑年十二月二日所本九勤○同八卯年

六月十三日系馬 上後合々及洋領○享保

六丑年七月十三日家上足所室花友々改官料

百保○同八卯年六月十八日に百保高々改下

官料八返々保○享保十六戌年七月二日

死六十七歳葬地同上

義徳

神名市多富門

大己所

享保六五年八月九日初見○同十巳年十月廿六日大雨為○寛延二年二月十二日大雨與以○宝曆十三未年七月十一日於大坂左為死六十未年大坂右所欣靜寺葬

義著

伊達連子孫
寛延二年助介也也大男

神名市多富門

豊之進

寛延二巳年二月廿日養子○同三年

七月朔。初見○宝曆十三未年十月三日初見○安永六申年二月八日所腰初方○天明八申年九月十二日死六十九歳麻布圍林と葬

義忠

田舎住以
安永六申年与灰の取極功男

神名市多富門

金邊門

義之助

安永二巳年九月廿日聲養子○天明八申年十二月二日初見○寛政四年正月廿六日
安永八月廿六日病死

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

高言重名拜

家殺中孫内中御

丸内中御

藤原氏

祚告

依友右秀郷公侯等國ノ与備侯賀左衛門尉
光季十七代侯賀新左衛門光俊男侯賀次郎藤原
光明次男三州額田郡祚告村后任文公祚告ノ
改名宗

正利 祚告左衛門尉

初 五

廣忠長(在任)〇七推皇弟元

正昌

神谷子不郎

五五

神長(奉仁) 九野家

正次

神谷雄成卿

又五郎

神長号の河時号

台徳院殿乃河代号〜河例始奉公河原下

改兼市〇寛永二年七月廿七日武蔵國

七百六十石乃河判物と為〇その後唐津燒小町

香爐平領とす取付〇寛永二十二年七月

二日死す十二歳法皇弟乃河告照とす葬

園於流胎於武法相傳是ハ應仁年中洞院

大納言実巡御首取二州又配流とす

恭親若相乃河道と好すと為り

神長長當との故実聞し死す人等とす

おろく実惣つと振うと給ひ〜と飲食の
式も惣のこり〜のハ実惣の飲食ハ礼の
本なりとて 惣裏膳の友人なりし
園於和泉ちう一族のそのとめ〜し
恭親君御一承乃礼式と勤しえり
そ後正次のみ式と字ハ清基正次と命とり
祿長江都より〜を給ひ〜のら方野島公
よ傳へ正次の子又又弟正基正基の子平七弟

正基すてお清で清基正次より寛永二
年正基痛より〜職と辨〜彼礼式と
智なり〜 祿長長長長〜得世〜清基正次

孝なり 長長正後
小孫の改

正重 祿長又為郎

寛永十六年十月十八日奥白河奉公清基正次
兼弟の明曆二申年二月十二日病歿。寛

文之五年四月廿五日死六十二歳葬地同之
 大猷院殿清代門松澤領末之近河達之り
 一之年河竹方より建之り
後又の常山に
 う時禱

正流

林若平七郎

寛文之五年十二月十日歿○其後父の
 職之継○同十二年十二月病歿○近賢
 大己年六月に於て六十一歳にて死葬地同之

正羽

次男

林若又六郎

源三郎

延宝大己年七月十二日歿○之禄十三石
 年六月廿六日大御者○宝永大己年三月
 同与次○享保に亥年十月九日職と奪
 ちと赤地の半と収公とらるるなり
 思右とらるるなり
 林若より治より河判物ハ之の始可和物

と終り了る。○延享二五年七月二日死谷中
瑞林寺中本之院に葬

正常

林谷求馬

寶永六五年正月六日没初屋住清小姓組。享
保二百年七月三日病免。○同年同月七日死

葬地同之三條寺

正透

実正常抄後

神名平七郎

元次郎

享保二百年十月九日文正常初屋住に就式
○同九辰年閏四月十六日嫡孫兼祖。○同十六
亥年正月廿一日大所考。○元文三年年六月
廿八日所考没考。○延享二五年九月十八日
祖父が終。○同比卯年九月十二日病免。○寛
延三年年十月廿日死。○十一歳谷中安立寺葬

正虎

安永三年保元三年
林右又次郎

案一也

寛延三年年十月廿日廿年廿子○同年十二月廿
七○那德○明和八年八月廿一日清書院書
○安永七年十二月二日死(三十三歳)海軍新
編台也子、葬

正勝

林右龍五郎 政之如
二五三二百八十七石六年

安永七年十二月廿六日那德○安永九子年

三月十九日清書院書○天明三年二月廿
吹上電的 上流及和二百之後一友○同年
九月廿一日吹上大的 上流時股二之後一友
○官政年有回馬馬說○日七年二月廿
全騎馬流

久好 在任

通判 在任

清久 在任

家督 在任
中代 在任
相 在任

久政 在任

在任
在任
在任

久豊

在任

高五百名

家後丸内丸半蝶

在任

藤原姓

在任

在任

先祖不詳

正保二百年秋結。後即勘定。寛文四年

年二月十日死。年十七歳。在任。在任。

久時

神谷南左衛門

五三席

寛文己辰年卯暮。延宝元丑年巳勘定
○元禄^十二辰年丁未月廿七死。乃十巳葬葬化
同

久教

与坂藩の御家人
其後、神谷南左衛門の御家人

武左衛門 初半助

元禄三年辛未八月辛酉養子。○同丙申年十二月
二日於鹿谷に没。勘定。○同十六未年九月廿九日

伊勢守組取加秩百俵合宿禄御百六十俵。享保
元申年十一月十二日豊前國中津城地郷村
法取所用養當の福あり。○同丙子年十月
廿日武州新宿用水所豊法水盛所用養福
あり。○同八丑年六月に没。勘定以、没後。○
同年十二月十八日布衣。○同十巳酉年十二月
廿六日二百六十石と加賜をられ。享保六百石と
なり。武左衛門のうらゝゝ初半助。○同十七

子年西國節福長附文會所用襖揚あり
 ○同十八丑年出羽陸奥村々定免迄先吟
 味所用襖揚あり○同十九寅年十二月
 朔日所用定奉行○同年同月十八日迄定
 ○元文二己年
 波明院殿所用誕生所用襖揚○延享二丑年
 紅葉山八講所用襖揚あり付殿○寛延二己年
 六月十六日死七十八歳葬地同と

久武

実父教四男

林谷与市郎

年深伊城

角五郎

十三年七月四日没

高年五十九歳

享保二十卯年九月十九日所用出陣組○寛延二

己年九月三日家終○宝曆七丑年十二月九日

至改改○同九卯年十二月十六日上し勤し

より所得所得詞と福ひり福もああり

○明和六丑年十一月九日西九所膳奉行○

安永八亥年

公田聖年十有
其年九月
葬同寺

孝恭院殿英洲之依之三月十二日一統

○同年十二月廿六日小室法親王○天照元

丑年六月廿九日死六十八歳葬地同之

久勝^ノ後

久之

神長武在傳

子大日名武親國

初

明和八年三月八日次男忠領○為永六申

八年八月廿三日初人○天明元丑年九月廿

初日○同日辰年正月廿三日西九所書後

○同六年十二月廿七日病歿○同七年八月
十一日所書後書○寛政二戌年七月廿三日病歿○
只年七月廿九日在寺先立指入余母葬同寺

久武^ノ曾
孫^ノ也

敬一^{コヒ}

石^ノ帯^ノ切^ノ知^ノ少^ノ身^ノ看^ノ居^ノ信^ノ用^ノの^ノ事^ノ也^ノ寛政年土
月晦日在寺先立指入

久侃

与十郎

実市左衛門久勝惣託

重^ノ也

寛政元年十月九日卷子。只年十月

家督

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



平姓

神田

高田百俵

印氏相馬

本所内十三ヶ所
相馬守り

相馬小次郎御門下り印氏系御家人

神田共文左馬助友長男

神田園幡子

小次郎

共文左

将高

初上初建芳左仕て後建方敏境輝虎
と相系りし時休年初仕し如小宗氏
康より征状系りし小宗氏、如成氏康より

氏直とて今は為る戦切中徳國國を卷
合戦氏直より威状とゆふ南島原を去る
東照公家東山國の知天正十九年正月
之役より切くとも城を渴する首石を納
の波仕の援え和申年十一月廿日死す
九歳或外を稱る海名守葬

將時

神國共之傳 壬午年

名徳深敷代は所をりの初傳存し
而く此書信は別の名はとも蓮池門
此書信の時石川は是の因有今未だ
そまのりともさるる八百石の由其後此
氣と家の寛永二年二月廿日死す時
の事此氣故に書あるとの事論り
此書信の將時を稱る海名守葬
海名守葬

正重

神田孫三信 平白部

寛永二年五月廿七日
大猷院殿皇代山小姓御孫
玉葉等の加秩御百俵の老免の寛文
卯年二月廿七日
後出兼内守并

正信

神田勘三郎

寛文卯年十二月十日
家督の同年

十二月廿日
六月廿日
廿七日
廿七日

正次

神田孫三信

寛文卯年七月十日
年二月十日
二月十日
二月十日
二月十日

心親

神田織成

共七席

貞享五年七月十二日百家持の元禄二年
年二月廿四日大正書の月十二日未年六月
崎多桐乃方書の宝永二年十二月廿八日
病欠の書原七箇年六月十二日死後六
歳方得河洞書守身

将富

神田共七席

共四席

心徳元卯年六月廿七日鮮若子の享保七
箇年八月百家持の月九在年十月九
日大正書の月廿二月廿八日唐来と換
物元文五年十二月廿八日死後九歳
月守身

将賀

神田共七席

元文五年十二月廿八日百家持の元和
元申年九月七日大正書の月廿五年

九月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日
没仕○同九月廿一日○若水元禄七年七月廿一日
卒

将慶

三〇日百俵

明和四年十一月九日春子○同五年
二月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日
家督○同三年十二月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日

神田織部
神田織部若水元禄元年十二月廿一日行七郎織部又景

二〇〇年二月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日
卒

将興

神田水子

宝政元年十一月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日
卒
七月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日
卒
八月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日
卒
九月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日
卒
十月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日
卒
十一月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日
卒
十二月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日病免○若水元禄元年十二月廿一日
卒

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



平姓
神田

高公百名

在彼
九之三
神田

相子小公所為門下公神田原之信

正字次男

神田又公節

石

新祝部百信之百名之凡者其日卯年

大猷院御遺命

法揚信成之治之正則神田公之信

二富年三月廿四日死小日向林泉寺
葬

正考

三島川城の白方二層
神田江古

吾子成徳の孫田中殿ありて定正二富年
宗姓組の口承に因りて宗承の年
十二月十日

文照殿及有入令りて正廣殿ありて
二富年一月廿七日横大なる番次

左科之首領と加秩と稱し同日正廣年七月
家子成徳も此守加秩之首領と
此五段守令の口承に正廣年八月廿日
地元の正徳之在年十一月廿八日死の格
正徳年正月廿日葬

正忠

神田久右衛門

正徳二年正月廿日
初見の口承に正徳年八月廿四日死の格
七段守令の年正月廿日葬

心照

神田村子 糸布 延壽 延壽

心徳三石年十二月廿七日 糸布 延壽 延壽
享保十三年十一月九日 延壽 延壽
丁巳年十二月廿日 糸布 延壽
月十八日 布衣 延壽 十三年 申年 月
日 延壽 延壽 延壽 延壽 延壽
心照 延壽 延壽 延壽 延壽
延壽 延壽 延壽 延壽 延壽

九条本因寺年

心之

神田村子

糸女

延壽 延壽 延壽 延壽 延壽
延壽 延壽 延壽 延壽 延壽
延壽 延壽 延壽 延壽 延壽
延壽 延壽 延壽 延壽 延壽
延壽 延壽 延壽 延壽 延壽

心賞

神田村子

糸女

安永三年十一月廿七日
成永十一年十二月廿七日
十一月廿七日

平姓

神田

印氏相馬

三田百儀

家茂

家茂
相馬氏
相馬氏

神田因幡守將三田百儀

神田三田

將次

大藏院敷目光之山詣時半人終之

三田百儀
三田百儀

儀之加秩之山納戸加秩之儀之山納戸

相馬加秩百儀之加秩百儀之加秩百儀



○老幼の之儀は未年七月廿百死八後
牛の園林守等

神田本之庄

将直

慶長元子年二月十九日留子日二五年
十二月十九日大書之儀は未年七月廿百
○丸書開書以の月廿五年二月廿百
病欠の月廿六年六月廿百死七後
歳日守等

将行

神田本之庄 庄在御氣

○老幼の之儀は未年七月廿百死八後
牛の園林守等
慶長元子年二月十九日留子日二五年
十二月十九日大書之儀は未年七月廿百
○丸書開書以の月廿五年二月廿百
病欠の月廿六年六月廿百死七後
歳日守等

将明

神田定房
神田定房の御孫
神田定房の御孫

正徳三年八月晦日有長子の事係
十一日亥年八月廿七日家督の以也年
二月廿四日初番の以年十一月廿日大番
の宝曆八寅年二月廿二日
同正三年二月十九日死七在案以守
年

将高

神田定房の御孫 神田定房の御孫

波江親又

宝曆二申年十二月廿七日大番の以九
卯年七月廿日拂方以納戸の以年辰辰
九月廿日息小納戸の以年十二月十八日
亥の以年巳年八月廿日有長子の以年
八月廿日有長子の以年三月廿日有
長子の以年三月廿日有長子の以年
八月廿日有長子の以年三月廿日有
長子の以年三月廿日有長子の以年

貞年十二月廿五日...
十日...
貞年六月十九日...

美濃守御書

神田日記

幸徳寺

將兵

四和女子年二月廿九日...
年八月廿日...
上日死之程...

將兵

神田日記

幸徳寺

高田日記

本永今年年十月...
貞年四月廿七日...
有火事...

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

平姓

之或後人持持

神祇

平苗神戶

辰

平苗神戶
辰月
辰月
辰月

平隆盛公出神戶花人盛保後胤仔和國使入

神祇与右面(注保和願)

保久

神祇与右面)

慶安三寅年七月九日於松田河原人相國使友
觸頭原米藏百依。貞享元子年十二月九日死

巴谷西念寺三葬

保平

神祇因道

初至位小十人。後取立所用人之子三
百俵云。元禄三年甲子四月廿七日。婦子或於次男
采女（同）於依。父子二人甲州古石苑絶
○後死

某

神祇式神

所例由奉公。元禄三年甲子四月廿七日。於依之
与父同甲州古石苑。○後甲州之死

某

神祇采女

履歴同之

保貞

神祇市吏

貞享二寅年十一月十六日。次男之權置祭所。此類
○翌卯年二月廿七日。廟米二百俵。○同年七月

十八日所書院者組取初秩百俵。元禄三年年
正月廿七日見内通子有示跡。候陳言不仕
不祝法有通塞。○翌未年六月八日通塞出先
職福と子と臣放され月俸古人口と後以
小普信。○宝永元申年十二月六日
文昭院殿西凡入と後一圓小普信。
享保二酉年十月十八日死葬地同上

保邦

神祇三所進

享保二酉年十二月廿六日死。○寛延二
己年六月六日死。葬地同上

保共

神祇五所進

友右部

寛延二己年九月三日死。○同四年六月
廿一日表所被奉。○宝曆九卯年七月十一日死。
二十六葬地同上

保固

実初定右左門常後六男
補於貞六男

宝曆九年九月廿九日急病薨子忠徳寛政

三年十月廿九日死

之酉年十月廿九日死比十七歳葬地同上

保章

補於祿茂

子亦人技打

寛政之酉年十二月廿六日薨後同日即葬
乃一男也

源姓

三男

補原

後 九月薨
丸二

清和天皇二十代駿州祿原城之祿原貞月之補

氏德十代孫相州津久井浪人祿原人常助也

三男

徳門

補原三郎左衛門

子六男

宝永之申年十二月也後○徳元卯年十二月十

八日正福寺廟奉祀百々依。○正徳元年十二月
廿三日加秩六十俵合計百俵。寛保二戌年老死
褒金二枚。寛延三年十月廿一日死七十六歳
淡路東國与葬

徳長

安永八年
補原百廿五席
之正日俵

寛延二己年三月十六日嫡孫兼祖。○同三年
十二月廿七日被毒死。昭和八年七月十八日

西元十八人。○安永八亥年正月十六日御免
勤。天明元丑年四月廿六日西元勤。天
明二寅年十二月廿六日病免。○天明四年
六月廿九日死享年九十

徳行

徳行

天明四年九月二十日御免

台徳院御印



神治

藤原姓

高田儀之持持

家茂九二〇 兼在

武藏國住人神治繼及之助美茂儀

美勝

金書

台徳院御印 高田儀之持持 ○ 高田

山原美勝書 ○ 慶安二年十月九日武州

長尾郡田沼村子樂寺葬

義治

金右衛門

慶安四年十二月廿七日卒
配幼室○正和元年十二月廿七日卒
之祿二年七月死同寺葬

義持

金右衛門

之祿二年七月廿七日卒
廿二日配幼室○同十二年六月
○正徳元年六月廿七日卒
二年四月死同寺葬

義興

金右衛門

実古今右邊數次二男

享保九年十一月廿七日養子○同十二年八月十九日家傳○同十三年十一月廿八日書妻○同十七年正月廿七日病死○同十八年十一月九日寺葬

養雅

左馬

享保十八年十一月廿七日家傳○同二十二年十一月九日病死○同二十三年九月廿九日動○享延元元年十一月廿九日葬○享宮極法下向江連法用同一年十一月廿七日法順

○享曆二年九月廿九日西九月廿九日法用達○同三年十一月廿九日公親院極法用達○同十一年十一月十九日同為美口方口下向江連法用同廿九日

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

東照宮清代

神戶

平姓

三石信之持

家紋 九目 赤梅

新三佐左近清時將旨盛流神戶
人具盛男

二十七郎

信孝

実公後園左信長二男

天正十年信雄と相戦信孝軍敗績
終小信孝母并幼息及長后高直等
母と為人質由送て和協す不登天
正十年信孝母自之志と殺
秀右忠く信孝母并高直等
母と安去て城下おわて樂と是なり
名小信孝幸后古市孝孝幼息
と奪心竊し惣高直と活けし國神戶

一族小使に養育し時世と保是
神戸に生れ國と名宗國迄と極と
号珠別山誓和と成長し後初白
津邊家奉仕信孝終小勝利と去り
同年四月廿九日尾久野間と海小
旋く生害と初年廿五歳

盛信

十全集

初巻之巻

慶長年中於渡河新 百出正統○之後
台德院殿清代清平丸丸書○之後
九清院同書○之後清平丸清平丸
清平 清平見正○實承十九年二月
百死地 瑞公行寺葬

盛茂

十五支

寬永十九年家傳○慶安三年
表少書○延享三年傷丸○日七
年持任○之後保元年十二月日死寺

葬

雅盛

十五支

延享三年存督○貞享三年日丸

孝女之番○之保之年中從國甘○正
德元年三月十日死○寺葬

雅好

及七所

正德元年家督○日年為正月清室
茂清○日又年支配幼定○享保之
年八月十日檢見清用○日年十月日

幼定○享保之年中正月病死○日
二年二月七日死○寺葬

雅昭

享保二年六月廿日家督○延享二年
九月廿日小十組○寛延元年十月廿日
病死○享保八年十月十日死○寺葬

日寺英

环英

及十部

初清

宝曆二年十二月廿七日色智養子家清

○日九年八月廿五日半念○明和八年

十二月廿九日九月廿九日大の時辰二

元○安永三年正月廿一日陽元○二高

二年十月廿六日二十一日本英

但信

二十七部

初台之庭

祥光

十集

二年十月廿六日家督

神田清敏



神戶

平姓

高木格依之持持

家後九柳蝶

神戶是人是盛治會神戶是物盛繁
民孫神戶仁右邊繁最二男

繁延

十五

延至五年十月神田清敏は百出は佐佐

依之入持斎○以年十月七日大番口
加坊信儀於合信儀之入持斎○以年
十月廿日

淨徳院極詣西元大番○大和元年
九月廿日院山堂法○元禄七年二月
十九日西元法番○以年十月十日
在法寺葬

繁度

治左史

元禄十二年七月七日法番○宝永元年
十月十日法番見口堂法番○享保十年
二月廿日幼定○元禄元年八月十日堂
法入○延享二年十月十日法番葬

氏家 幸助
元禄七年十月七日法番葬

繁雄

治左史 初左史

延享三年閏十月廿一日奉督○宝曆三
年六月十日為九月廿一日○十月十日
啓

大津所造十一月十日奉督○十一月
十日十日奉督○四月廿二年二月廿日奉
奉督○二月廿二年二月廿日奉督
○寶曆三年閏六月十日奉督○延享三年
二月十日奉督○奉督

繁英

近卷

実者石川保右衛門忠貞二男

明和三年閏十月廿一日奉督○十一月
九日初見○十一月廿一日奉督○
口奉督○寶曆三年九月廿日奉督○
十一月廿十日奉督○奉督

奉督

繁昌

改之也 初月祭物

田中重信
実者神戶重信也長男

安政二年十二月廿九日急養子家督○
同月九年九月廿二日初九○同九年二月
廿二日持孫支亂劫定也○同年十月
廿二日持孫支亂劫定

一 若系姓 高七程儀少人持孫

神山 高改 丸内 印 天 信

大儀冠縁是々出武藏与秀乃 後亂神心
日所右邊 宗の之男



申明 神心之系在馬

西徳之在平十月四日口字保大 丑年
二月二十日之取勘定之口也字日卯年十月
八日如相國家之門通口城本以分取以保



後復の日本工ノ工日所奉口宛事
の安永六申年七月九日宛事宛事宛事
同守

明校

結山信印



安永六申年十月八日宛事宛事宛事宛事
年九月九日宛事宛事宛事宛事宛事宛事

高七信依六人校持

